

The Hands-On Times

認定特定非営利活動法人ハンズオン！埼玉 TEL048-834-2052 FAX.048-826-5184 URL: <http://www.hands-on-s.org/> 〒330-0063さいたま市浦和区高砂2-10-6

5年を迎え
新組織発足へ

福玉便り
ふく た ま だ よ り
発行中!!



3・11からまる5年、『福玉便り』発刊からまる4年になります。避難区域の解除がはじまりつつあります。これは同時に、避難者つづけた人にとつては住宅の支援が解除されることでもあります。区域外からの避難の方への住宅保障は、あと1年ということになっていきます。一方で埼玉に家をたてる方も増えてきています。人によって事情が

難の方への住宅保障は



『福玉便り』発行：『福玉便り』編集委員会（埼玉県労働者福祉協議会・ハンズオン埼玉・コープみらい埼玉本部）／部数：4000部／月刊／富士ゼロックス埼玉支店数部のみなさんに『福玉便り』の印刷をご協力をお願いしています。中央共同募金会災害ボランティア・NPO活動サポート募金の助成を頂いています。毎月の発送作業にボランティアに関わってくださる避難者の方など、たくさんの方に支えられています。

3・11からまる5年、『福玉便り』発刊からまる4年になります。避難区域の解除がはじまりつつあります。これは同時に、避難者つづけた人にとつては住宅の支援が解除されることでもあります。区域外からの避難の方への住宅保障は、あと1年ということになっていきます。一方で埼玉に家をたてる方も増えてきています。人によって事情が

先日、環境大臣が、国の追加被ばく線量の長期目標を「何の科学的根拠もないのに、当時の環境大臣が決めた」と発言し、のち撤回しました。▼避難する・しない、戻る・戻らない、どの選択も苦悩に苦悩を重ねてのそれです。安全を強調すると避難を否定し、危険を強調すると帰還する人を否定することにならないか：4年間、『福玉便り』の編集で一番悩んできたことです。原発事故とは直接身体に影響を与えるだけではなく、人の関係を過度に緊張させ、ときに断ち切るものでした。▼自らの正しさを強調する傾向が強くなっている時代だからこそ、「でもね……」と簡単には言えないことがあることに留意できる社会にしたいと思います。（西川）

おなじみ父親の地域での仲間づくりを応援する「おとうさんのヤキイモタイム」。



11年目を迎えています。おとうさんとヤキイモをしたいという方にお芋を送りつけて応援する全国唯一のまつりキャンペーン。しかし都市化の進展が遊び心の減退か、近年、応募件数が減ってきました。もう時代にあわないのか……。というわけで、昨年までの自治体経由での配布に加えて、県内全小学校にDMを送ることにしました。その地域でも増えなかったら、この事業を終了する覚悟で発送。結果は、新規のお申し込みや、相談をたくさんいただきました。送ることにしました。それでも増えないなら、この事業を終了する覚悟で発送。結果は、新規のお申し込みや、相談をたくさんいただきました。

「先日の校庭での親子大焼き芋大会は40人参加で大成功でした。普段、規制ばかりで自由に遊べない子供たちも、今日は親子で広い校庭で焼き芋とマシュマロで素敵な思い出ができたと思います。焼き芋の優しい温もり効果は、普段疎遠な保護者同士の交流親睦も深めることができました。開催できて、幸せでした。」



シンポジウム 震災から5年、広域避難者の生活と支援を考える

日時：2016年2月27日(土) 13:30～16:30
場所：さいたま市民会館うらわコンサート室
参加費無料、申し込み不要です。直接、会場にお越しください。

これまでの活動をふまえ、今後の活動を継続・強化するために、この春、新しく「埼玉広域避難者支援センター（通称・福玉支援センター）」を立ち上げることにしました。多くの避難・被災された方、支援をしてこられた方と、あらためてこれまでの5年をふりかえり、現在を確認し、これからの5年を考えます。ぜひご参加ください。



「ジャスティスは、一部の権力の側で決めるものではありません。問題や苦しみを抱える人、寄り添う人の側に、主権者である一人ひとりが耳を傾け、対話を重ね、理解と信頼を高めながら築いていく生きかた、市民社会のなかにあるものと確信します。」（あとがきより）

SJFは、助成やアドボカシーカフェという集まりを通じて「社会対話」をすすめたいという願いで活動されています。対話のないところに、気付きも行動も、そして変化もない。私たちがカブリモノなどをすすめてきたのも、人がまず一人の人として出会い対話することが人を自由に、社会を風通しのいいものにしていくと思うからでした。ぜひ一読ください。

民主主義をつくるお金



2011年に設立された『ソーシャル・ジャスティス基金（SJF）』の4年間の記録をハンズオン埼玉で発刊いたしました。SJFは、「ソーシャル・ジャスティス（社会的公正）」という視点で、社会の多数派の考えや現在の政策・制度では見逃されがちだが、しかし大切な課題に取り組む市民団体の活動に対し助成をしてきました。特に、その問題の原因の解明や予防のための制度・しくみづくりをすすめるアドボカシー活動を支援する日本で初めての市民ファンドです。これまで「多様な学び保障法を実現する会」、「レインボープライド愛媛」、「なくそう！子どもの貧困全国ネットワーク」など11団体に助成。本書にその成果を収録しています。

新刊!!

へとも決めるプロセスを さいたま市市民活動サポートセンターの直営化問題

●10月16日 さいたま市市議
会会同市の市民活動サポート
センター（サポセン）を「一
部の団体が政治的な目的で利
用している」ことを理由に、
指定管理者による運営を停止
して、一時的に市の直営にす
るとした条例案が可決されま
した。このセンターは、公募
によって、さいたまNPOセ
ンターが指定管理者となり、
市民とさいたま市の「協働管
理運営」型施設として運営さ
れてきたところです。



●12月4日 ハンズオン埼玉
を含む5団体がよびかけ91
団体と個人36人の賛同を記し
た要望書を、市長室と市議会
各会派をまわって手渡しまし
た。「説明をしていただけま

せんか、市民との対話のなか
で解決策をさぐりませんか」
とお話してきました。

●12月22日 市およびすべて
の会派からお返事をいただ
き、これをまとめて公表し、
あわせて呼びかけ団体として
の見解を含む「報告」を発表
しました。
<http://www.hands-on-saitama.org/saposen/kaitou1222.pdf>
以下、一部抜粋です。

「市民とともに決めるプロ
セスがあつてこそ、その運営
に責任を持つ市民が育ちま
す。市民活動とは、多様な
人々が生きやすい社会をつく

るために市民自らが責任を持
とうと動くことです。その推
進の拠点であるサポートセン
ターが、これまで市と市民に
よる開かれた議論・多様な意
見を持ち寄り合意をつくりだ
していくこと、すなわち自治
への努力のもとで運営されて
きたことは、その設置の目的
からみても理にかなつたあり
方なのではないでしょうか。
「公共性」とは本来そのよう
にして生まれ、担保されるも
のだと考えます。」

●市からは、「方向性が決ま
ったら説明する」という返答
をいただきましたが、私たち

が求めていたものは、開かれ
た議論によってつくられたセ
ンターであるからこそ、今回
の対話のない議決は残念であ
るし、今後、新しい基準をつ
くるにあたっても、ひらかれ
た議論のプロセス（議員さん
もふくめた）をつくって欲し
いと考えています（単なる利
用者向けの「サービスは変わ
りませんか」という説明で
はなく）。

●市民の自由な社会的活動に
対して、公権力が介入するこ
とは許されません。また本
来、公共施設は合理的な理由
がない場合、その使用を拒む

ことはできないと地方自治法
にもかいてあります。
●4月からの直営化をすぐに
撤回するというようなことは
難しい状況ですが、長期的に
継続した取り組みをしていき
たいと考えています。今回の
ことで、あらためて市民活動
とは何か、政治と市民活動は
どうあるべきか、自治とは、
公益とは、公共とは、公共施
設とはを多くの市民が考え、
学び直せる機会にし、よりよ
い施設運営・まちづくりにつ
なげていきたいと思っています。
●10年前発行の『私のだいい
な場所』を読み返しながら！

避難所の貼り紙



最近、「原発止めろ」「安倍を許
すな」…とたくさんさんの「コピー
」に出会う。そうだなあと思
う反面、小心者の私は一瞬どこ
か責められているような気がす
ることもある…。

「正しい」と信じる故の覚悟を
もったコピー。その内容がズン
と届くと同時に、
その勢いに自分が
よろよろと飛ばさ
れてしまうような
…。
そんな時、5年

広報世界遺産



前、一夜にして25000人の巨
大避難所になった「さいたまス
ーパーアリーナ」の館内で見つ
けたある言葉を思い出す。それ
は、コピーというより誰かが手
書きで書いたメモのような言葉
だった。

「赤ちゃんの声 生きてる声
だね、みんなであれしく思おう
よ。」
そうか！
「赤ちゃんの声がうるさくて
眠れない」と言う苦情に悩んで
いた私たちボラセン情報班は、
福島の方たちと一緒に、この言
葉を小さな紙に手書きで書いて避
難所内のあちこちに貼った。
直接、この言葉のお陰かどう
ある。

かはわからないが、不思議なこ
とにその頃から苦情は減ってい
った。
みんなを助けた、役に立ち
たいという思いから生まれた
「心のつぶやき」。それが届い
た瞬間、だれかの気持ちのドア
がそっと開いたのではないだろ
うか。
自分と違う考えの人を責める
のではなく、ちょっとだけ多く
のみんなを「そっと包む言葉」
をだいたいしたい。

おとうさんの がっこうタイム



一〇月三十一日 武蔵浦和コミ
ュニティセンターにて表記の
集まりをもちました主催・ハ
ンズオン埼玉。各地のヤキ
イモタイムの主催のおとうさ
んたちを中心として25名以上の方
が集まって、お父さんが学校
にいくことで自身に、子ども
に、学校や地域にどんな意味があるか熱く（るし
く？笑）語りまわした。また各地のヤキイモの様
子などについて情報交換
の場にもなりました。

「学校に関わるおとうさ
んはマイノリティ。でも
いろんな地域から一同に
集まると、そうとは
思えなくなるのが
不思議だった」
などさまでさま
な感想をいた
だきました。



七輪おいたら、あら不思議 、道端で起るOX△□!?

一月一四日 和光市牛房コミセ
ンにて「日本コミュニティ七輪学
会」設立総会記念イベントが開か
れました（ハンズオンは共催）。
七輪をはじめて、人と人を自
然につなげていくためのアイテ
ムや活動を研究・普及しようとい
う会です。総会に先立って、和光市
のレトロ銭湯乃湯さんの前の路上
で、七輪を楽しむました。また総
会では、宮里和則さん（北浜こと
も冒険ひろば）から「へ何かあつ
たら責任を問われる」大人ばかり
が子どもにかかわる時代。通りす
がりの人が自然に交わる場を」と
いうお話を、嶋村仁志さん
（CHOKUPAY代表）
からは、日本・世
界各地で路上で遊
ぶ人がつながら活
動を紹介していた
だきました。楽し
くおいしく学べる時
間になりました。

